

令和4年度 実践課題と具体的方策の重点

<p>1 学校経営</p>	<p>学校や地域の特性をふまえて、創意工夫を生かした特色ある学校経営を推進する</p> <p>(1)法令や帯広市学校教育基本計画に基づき、学校教育目標の達成を目指し、学校経営に努める</p> <p>(2)学校の経営方針や教育活動について、積極的な情報提供と説明責任を果たし、学校評価（自己評価・学校関係者評価）の実施・公表により学校改善に努める</p> <p>(3)<u>同僚性の向上</u>と服務規律の徹底を図りつつ、3つのS(スピリット・誠意・スマイル)の合い言葉のもと、報告・連絡・相談を徹底し、活力ある学校運営に努める</p>
<p>2 教育課程</p>	<p>「生きる力」を育む、知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努める</p> <p>(1)前年度の成果と課題や地域の状況を踏まえつつ、広野小の特色を生かした年間指導計画の編成・実施・評価・改善の充実に努める</p> <p>(2)地域の教育力を積極的に活用し、<u>地域に愛着をもつ体験</u>や体験感動をともなう体験活動など、特色ある教育活動を展開する（笛舞交流・農園活動・環境教育等）</p> <p>(3)教育課程の管理に努めるとともに、GIGA スクール構想、ICT を活用した主体的、対話的で深い学びと、<u>個別最適な学び、協働的な学びの充実</u>に向けた授業の改善と評価改善を進める</p>
<p>3 教科指導</p>	<p>基礎的・基本的な事項の確実な定着と、自ら進んで学ぶ意欲を育て、一生涯にわたって「生きて働く」能力の育成をめざす</p> <p>(1)宿題相互点検や学びチャレンジ週間、復習金曜日、学習スタジアムなどを活用し、個に応じた指導と子どものつまずきを見逃さない指導に努める</p> <p>(2)学習規律（もしり等）を徹底し、小中一貫を見通した学習指導を行う</p> <p>(3)言語活動や ICT 活動を充実し、校内研修を踏まえた<u>聞き考える力、表現する力、関わる力、踏み出す力を育む</u>指導の充実に努める</p> <p>(4)複式授業のよさを生かし、汎用性の高い広野スタイルを実現、継承する</p> <p>(5)家庭への働きかけを強め、連携・協力して、主体的に学習する習慣をつける</p>
<p>4 道徳教育</p>	<p>望ましい人間関係の構築や規範意識の醸成など、道徳的実践を重視した指導に努める</p> <p>(1)「特別の教科道徳」の目標である「考え、議論する」授業を目指し、道徳的な判断力・実践力の高揚を促す授業づくりを行う</p> <p>(2)学校の教育活動全体を通して、自己有用感や思いやりの心、生命尊重、規範意識などを高め、豊かな心を育む</p> <p>(3)参観日交流や中学校との授業交流、外部講師や地域の人材を活用した交流など、保護者や同校種、異校種、地域との連携を図りつつ、豊かな心を育む</p> <p>(4)道徳教育推進教師を中心とした教育体制を確立し、中学校との連携を図る</p>
<p>5 外国語活動 外国語科</p>	<p>外国語活動では「聞く力」「話す力」の育成、外国語科では「読むこと」「書くこと」に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の力を養う</p> <p>(1)外国語活動、外国語科の研修を深め、評価を含めた授業実践の充実と改善に努める</p> <p>(2)言語や文化について理解を深め、主体的にコミュニケーションを行う態度を養う</p> <p>(3)実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身に付けさせる指導を中学校と連携して進める</p>

<p>6 総合的な学習の時間</p>	<p>目標や内容、教科との関連を見通して各教科で育成された資質や能力を関連させ合いながら自ら課題を見つけ、自ら追究し、豊かな生活を追求する子どもを育む</p> <p>(1)子どもや地域の実態をふまえ、探究的な学習内容、主体的で創造的な学習内容となるように工夫する</p> <p>(2)プログラミング教育の目標を意図した単元構成で、論理的思考の育成を図る</p> <p>(3)「おびひろ市民学」を効果的に取り入れ、ふるさと教育の充実を図る</p>
<p>7 特別活動</p>	<p>様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら、課題解決に向き合う子どもを育む</p> <p>(1)一人一人のキャリア形成と自己実現に向けて、キャリアパスポートを効果的に活用し、学習過程を工夫する</p> <p>(2)児童が主体になった仲間づくりと、課題解決のための話し合いを充実させる</p> <p>(3)安全・安心かつ指導の系統性やねらいを一層明確化、精査した上で、各種行事を実施する</p> <p>(4)異年齢集団での活動を進め、各学年の自覚と責任感を醸成する</p>
<p>8 特別支援教育</p>	<p>一人一人の教育的ニーズに応じ、連続性のある多様な学びを確保する</p> <p>(1)特別支援コーディネーターを窓口に、関係諸機関との連携を図る</p> <p>(2)教育的ニーズに応じた指導計画や個別の支援計画を作成するとともに、交流学习を取り入れ、自立と社会参加を促す支援体制を構築する</p> <p>(3)インクルーシブ教育の理念のもと、充実感がもてる体制づくりを行う</p>
<p>9 生徒指導</p>	<p>全職員が深い児童理解と共通行動のもと生徒指導の指導体制の充実に努め、いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期解決に努める</p> <p>(1)共感的理解による、教師と児童の信頼関係を構築する</p> <p>(2)教育相談等により、個に応じた指導・支援に努める</p> <p>(3)学校と家庭、学校間、地域、関係諸機関との連携を図る</p> <p>(4)基本的な生活習慣の形成と指導の充実を図る（あいさつ、返事、片付け等）</p> <p>(5)八広いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめの未然防止、早期発見・早期解決を徹底する</p>
<p>10 健康・安全指導</p>	<p>自他の生命や健康・安全について考え、健康で安全な生活を送ることができる実践的態度の育成に努める</p> <p>(1)望ましい生活リズムを家庭と連携を図りながら推進する（早寝・早起き、朝ごはん、ノーテレビデー）</p> <p>(2)新体力テストにより、自分の体力の実態や経年変化を把握させ、体力向上に向けた広野っ子体チャレンジを充実させ、体育の授業の改善を図る</p> <p>(3)立腰（もしり）を意識させ、正しい姿勢で生活させる</p> <p>(4)学年の発達段階に即した「性に関する指導」の充実に努める</p> <p>(5)校内の危機管理マニュアルを確認し、避難訓練などの安全教育や防災教育の充実を図る</p> <p>(6)統一した給食指導を進め、共通理解のもと、アレルギー事故の防止に努める</p> <p>(7)感染症対策のマニュアルを整備し、感染予防、感染拡大防止に努める</p>

11 学級経営	共感的な児童理解に努め、学級への所属感や存在感、自己有用感を実感させる学級づくりを進める
	(1)学級経営案を作成し、支持的・受容的な学級経営に努める (2)全教職員で全児童を見守り・育むことを前提に、学級担任への支援体制を構築する (3)いじめや問題行動等の未然防止、早期発見、早期解決のために、素早い情報の報告・連絡・相談・交流に努める
12 校内研修	日常の教育実践の改善・充実に直結した研修活動を展開し、専門性を高める
	(1)校内体制を確立し、教員の資質・能力の向上を目指す校内研修の充実を図る (2)各種調査(全国学力学習状況調査、CRT、チャレンジテスト等)を全職員で分析し、結果をふまえた確かな学力の定着を目指した指導法の工夫改善に努める (3)仮説に基づく研究の手立てを日常の授業で追突・検証し、中学校との研究授業交流を進める (4)中学校と研究交流を意図的に進め、小中一貫としての統一した方向性を目指す (5)各種研究会、研究協議会、研修講座等への積極的参加に努める (6)講師を招聘し、指導助言を受ける機会の設定と実技研修の充実に努める
13 教育環境	学校・家庭・地域の連携協力のもと、ゆとりと温もりのある環境の整備に努める
	(1)地域のよさを生かした様々な生活体験や自然体験の場や機会を広げる (自然環境、人材、施設の有効活用とこれを生かした教育活動の展開) (2)教室環境を工夫改善し、美化の徹底と言語環境の適正化に努める (3)職員間およびP T Aの連携・協力により教育環境の整備を一層進める
14 家庭地域との連携	家庭・地域に開かれた学校を目指した取り組みに努める
	(1)各種便り、授業参観や懇談会等を通じ、保護者・地域との連携を強化した指導を推進する (2)情報提供と説明責任を果たすための取り組みを積極的に進め、保護者・地域に信頼される学校経営に努める。 (3)八広コミュニティ・スクール協議会組織に則り、小中一貫教育の専門部会を機能させ、連携を密にした教育活動を展開する (4)学校支援地域本部事業、子どもの居場所づくり、図書ボランティア、生涯学習委員などを包括した八広コミュニティ・スクール協議会の体制の充実を図る (5)八広コミュニティ・スクール協議会と連携し、家庭、地域、関係機関等と連携を図った交通安全・防犯・防災教育を充実させる
15 学校事務	学校事務の適正且つ効率的な運用に努める
	(1)適正・的確な学校予算の執行及び文書管理・文書収受に努める (2)教育活動の効果的な展開を支える学校事務を継続し、一層の充実に取り組む
16 笛舞交流	日高管内の笛舞小学校との交流学習を成功させ、子どもたちの友情と信頼を深め、心の教育を図る
	(1)笛舞小との綿密な打ち合わせに努め、スムーズに交流学習に繋げる (2)保護者、地域との連携を図り、感動をともなう体験活動を充実させ、豊かな心の育成をはかる